

日本スポーツ社会学会会報

VOL. 84



=目次=

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. 第34回大会実行委員会 実施要項 | 5. 海外学会参加報告 |
| 2. 第34回大会における研究委員会の企画 | 5-1. 日韓スポーツ社会学者学術交流大会 |
| 2-1. 研究委員会企画シンポジウム | 5-2. 東アジアスポーツ社会学フォーラム |
| 2-2. 学生企画シンポジウム | 6. 事務局より |
| 3. 第34回大会における国際交流委員会
企画シンポジウム | 6-1. 2024年度理事会議事録 |
| 4. 各委員会からのお知らせ | 6-2. 事務局からのお知らせ |
| 4-1. 編集委員会 | 7. 編集後記 |
| 4-2. 研究委員会 | |
| 4-3. 国際交流委員会 | |
| 4-4. 電子ジャーナル委員会 | |
| 4-5. 広報委員会 | |
| 4-6. 学生研究奨励賞選考委員会 | |
| 4-7. 学会賞選考委員会 | |

1. 第34回大会実行委員会 実施要項

大会参加を予定されている皆様へ

第34回大会は、岡山県岡山市にあります岡山大学にて完全対面方式で実施します。岡山大学は新幹線と空港からのアクセスも良いため、多くの皆様のご参加をお待ちしております。なお、情報交換会においては、これまでとは異なる形で素敵な時間と美味しいものを準備しております（各地から持ち込みいただくことも可）ので、是非ご参加ください。本会報に大会要項を掲載しておりますが、要項の修正・変更・追記等については最新版を大会ホームページにて更新していきます。ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

.....

日本スポーツ社会学会第34回大会 実施要項

【第3報】

1. 開催期間

2025年3月15日（土）・16日（日）

2. 会場

岡山大学 津島キャンパス 教育学部講義棟
〒700-0082 岡山県岡山市北区津島中3丁目1-1
<https://maps.app.goo.gl/NtfLEqzFpdANvLHt6>

3. 主催

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

4. 日程

次ページ以降のスケジュールをご確認ください。

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30	18:00	18:30	20:30
1 日 目 3 月 1 5 日	受付				休憩・ 移動	学生フォーラム	一般発表	昼休憩	一般発表	休憩・ 移動	研究委員会企画	休憩・ 移動	総会	懇親会
	受付	理事会												
2 日 目 3 月 1 6 日	受付	一般発表	昼休憩 & 実行委員会企画		国際交流委員会企画	休憩・ 移動 【20 分】	一般発表	クロージング						

5. 大会までの主なスケジュール

- 一般研究発表申込 2024年12月20日(金) 締切
→締め切りました。ありがとうございます。
- 一般研究発表抄録提出 2025年 1月23日(木) 締切
- 大会参加早期申込(早割) 2025年 1月31日(金) 締切

6. 大会参加申し込み

第34回大会ホームページに設定したGoogleフォームからの参加申込み手続きと同時に、参加費及び懇親会費を大会実行委員会口座までご入金ください。専用の振込用紙は郵送いたしませんのでご了承ください。

大会参加費の早期割引を受けるためにはGoogleフォームからの「参加申込手続き」及び「入金」がともに以下の締切日までに完了していることが必要です。

- 「早期」 参加費 ▶ 締切日 2025年1月31日(金)
- 「通常」 参加費 ▶ 締切日 2025年3月14日(金)

【大会参加費】

今大会では「当日」参加費を「早割」「通常」の参加費とは別に設定をしております。お手数でも「早割」「通常」でのご入金をお願いいたします。

種 別	早 割	通 常	当 日	情報交換会費
正 会 員	5,000 円	6,000 円	7,000 円	6,000 円
学 生 会 員	2,000 円	3,000 円	4,000 円	5,000 円
非会員・一般	6,000 円		7,000 円	6,000 円
非会員・学生	3,000 円		4,000 円	5,000 円

【情報交換会】

日 時： 3月15日(土) 18:30～(予定)

会 場： 真庭あぐりガーデン岡山店(大学からバスが出ます。送迎は大学→店舗→岡山駅前)

【参加費等振込先】

振込口座	セブン銀行(0034)
口座番号	3094781(普通)
店名	カトレア支店(111)
口座名称	ハラ ユウイチ

7. 一般研究発表申し込み

「学会大会一般発表に関する細則」が2022年10月3日より施行されています。発表者は細則を確認してから発表申し込みを行ってください。

(1) 発表申込締切日 **2024年12月20日(金) 締切**

大会ホームページの「申し込み(参加・発表)」Googleフォームから必要事項を入力し、送信していただくことで、発表申し込みができます。

発表者は、1200～1600字程度(英文の場合は300ワード程度)発表内容について発表概要ファイルを作成し、事務局メールアドレス jsss34th@gmail.com へ添付ファイルで送信してください。

発表概要の内容は、研究委員会にて審査がおこなわれます。申込時、概要の字数・形式は必ず守ってください。

(2) 一般研究発表の資格に関する注意事項

「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第5条による一般研究の発表者の資格は以下の通りです。

- 1) 発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。
- 2) 発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。
- 3) 発表者は大会参加費を納めていること。
- 4) 大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

● 発表者は、「年会費」「参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表できません。納入の

確認が必要な場合、年会費については「会員情報管理システム SOLTI」でご確認いただき、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

・年会費：会員情報管理システム<SOLTI>

<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JSSS>

・大会参加費：大会実行委員会メールアドレス jsss34th@gmail.com

・学会事務局メールアドレス jsssjimukyoku@gmail.com

(3) 発表抄録原稿の提出締切日 **2025年1月23日(木)**

発表申し込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査がおこなわれます。申込時、概要の字数・形式は必

ず守ってください。審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

- 発表抄録原稿用テンプレートは、HP からダウンロードしてください。
- テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿ファイル（Word ファイル）を提出してください。書式の厳守をお願いします。
- ファイル名は「発表代表者の氏名」（岡大桜子.doc）としてください。
- ファイルのアップロード先は、以下の提出前事前確認 Google フォームの入力・送信後、提出先の Dropbox URL が表示されます。提出ファイルをご準備ください（メールでの提出は受け付けておりません）。
- 抄録ファイル提出前事前確認 Google フォームへの入力・送信を必ずお願いします。
- 抄録原稿の提出締切日は厳守ください。締切日を過ぎた発表演題については発表を許可しません。

（４）一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分です。次頁の注意事項をご参照ください。

8. 昼食について

3 月 15 日（土）：学生食堂は未定

3 月 16 日（日）：学生食堂は未定

9. 宿泊の斡旋について

宿泊の斡旋は行っておりません。

10. 学会大会実行委員会

実行委員長 原祐一（岡山大学）
実行副委員長 白石翔（環太平洋大学）
実行委員 紺谷遼太郎（作陽短期大学）
実行委員 片桐夏海（環太平洋大学）
実行委員 部矢有紀（岡山大学 院生）
実行委員 有田翔（岡山大学 院生）

11. 大会に関する問い合わせ先

第 34 回学会大会実行委員会 実行委員長 原祐一（岡山大学）

Email : jsss34th@gmail.com

お問い合わせの際は、件名に【第 34 回スポーツ社会学会大会について】とお入れください。

12. 会場アクセス

- ・JR 津山線「法界院駅」 徒歩 10 分
- ・岡山駅運動公園口（西口）バスターミナル 22 番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車「岡大東門」で下車 徒歩 3 分
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html
- ・岡山 IC から車で約 15 分 駐車料金入構後 30 分まで無料 その後 1 時間ごとに 300 円を加算し、最大駐車料金（24 時間毎）は 1,500 円
- ・岡山市コミュニティサイクルももちやり 1 回 100 円 岡山駅西口⇄岡山大学東門 約 3 Km
<https://www.momochari.jp/map/index.html>

2. 第 34 回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画シンポジウム

日時：2025 年 3 月 15 日（土）15：00～17：30

スポーツと分断

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラム世界における紛争や軍事衝突など、近年、国際情勢が著しく不安定化している。また、アメリカ大統領選挙にみられるように、格差拡大や性的マイノリティの処遇問題等を通じた社会内部の深刻な対立や分極化が、時に SNS というテクノロジーも媒介しつつ、先鋭化しつつある。日本社会においても、SNS を介した極端な主張やデマの拡散によって、人びとの対立をあおるような局面が浮上している。

他方、スポーツの内部にも、宗教やセクシュアリティ、紛争といった要因によって深刻な亀裂がもたらされている。パリ五輪におけるヒジャブの着用禁止や一部の国の代表選手としての開会式参加の禁止、トランスジェンダー・アスリートの締め出し等、抜き差しならない問題が次々に起こっている。

本企画では、このような様々な“分断”とスポーツの現代的な関係を、時事問題やトピックに触れつつ、多角的に議論することをねらいとする。

登壇者：井谷聡子会員（関西大学）
岡田千あき会員（大阪大学）
※もう一名については調整中
司会：山口理恵子会員（城西大学）
竹崎一真会員（明治大学）

2-2. 学生企画シンポジウム

日時：2025年3月15日（土）9：00～11：00

リフレクシヴ・スポーツ論

－いかにして現場を捉え、社会に還元し、展望を描くのか－

本企画の企図は、スポーツ社会学を現場（スポーツ界あるいは一般社会）と理論（学术界）を往還する実践的な学問領域と見做したうえで、その往還の糸口を探索的に議論することにある。

かつて Pierre Bourdieu が Émile Durkheim を引き合いに出して指摘したように、社会についての科学には特有の障害（obstacles）が付きまとう。そのひとつは、大学・知識人（学術）界の内部で行われる科学的分析の文脈などを無視して、[世話人補足：今日では SNS を通して] 誰しもがその分析に対する評価を下し、議論へと介入しようというものである。しかし裏を返せば、その特性を有する社会学には、学术界の外部へと積極的に働きかけ、社会的主題に関する議論やアクションを協同的に遂行する道も同時に開かれているといえよう。

本企画では、こうした特性を踏まえながら、①スポーツ社会学者が直面している現状を「内省」する機会をつくり、かつ②現代社会におけるスポーツ社会学者の「ポジション」を探索したい。

そのために、本企画では田中東子氏（東京大学）をお招きし、多角的な角度から議論を展開する予定である。氏は、東京大学 Beyond AI 研究推進機構（2020年7月発足）に設置された B'AI Global Forum および MeDi（メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会）の構成員でもある。また、東京大学とソニーの連携による越境的未来共創社会連携講座（通称：Creative Futurists Initiative）の担当教員として、人文知やアート、デザインや工学を通じた新しい社会の設計に向けた教育活動を行っている。これらの活動を通して、氏は学术界の内部と外部を往還し、論文・書籍、TV 出演など多様な媒体を活用して学术界における科学的分析を積極的に外部へと発信してきた。

本企画は二部構成で進行する。第一部（トークセッション形式）では、田中氏にくわえ3名の世話人が登壇する。3名の世話人が個別のテーマを設定し、これまで氏が試みられてきた諸活動や氏の見解について対談を通して確認するとともに、スポーツ社会学を学ぶ学生という立場から「内省」の機会を得る。そこで扱うテーマ（予定）は、①現場への参与にまつわる諸問題（高田）、②学术界と一般社会の往還に関する現代的な障壁（堀田）、③大学・知識人界における科学的分析（村下）である。つづく第二部（シンポジウム形式）では、フロアとの質疑応答を行う予定である。第二部では先の論点を踏まえながらも、それらに拘束されることなく、非常に広範かつ活発な議論を促進したいと考えている。

登壇者：田中東子氏（東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授）
登壇者（話題提供者）：高田侑子（学生フォーラム世話人；順天堂大学大学院）
：堀田文郎（同上；立教大学大学院）
：村下慣一（同上；立命館大学大学院）

3. 第34回大会における国際交流委員会企画シンポジウム

日時：2025年3月16日(日) 13:00-14:50 (予定)

「*International Review for the Sociology of Sport*にみるスポーツ社会学の研究動向(仮)」

2023年度～2024年度の本学会においては、2025年7月に韓国・ソウル国立大学で開催されるWorld Congress of Sociology of Sportに向け、「国際化」を学会全体の活動における重点的な課題のひとつとして位置づけ、さまざまな取り組みを行ってきた。韓国スポーツ社会学会との友好覚書に基づいて2024年8月にソウル市立大学で行われた日韓学術交流大会、台湾スポーツ社会学会が主催する形で2024年10月に国立台湾体育大学で開催された東アジアスポーツ社会学フォーラムを通じた交流などはその成果であるともいえる。一方で、この間、国際スポーツ社会学会(International Sociology of Sport Association: ISSA)の年次大会であるWorld Congress of Sociology of Sportに参加する本学会員の数は例年それほど多くなく、ISSAの機関誌であるInternational Review for the Sociology of Sport(IRSS)への投稿もあまり見られない。さらに、これらのこととも関連するが、以前と比べるとISSAの中心メンバーとの人的交流なども少なくなっており、学会としてスポーツ社会学をめぐる国際的な研究動向が体系的にフォローできているとは言い難い。

そこで今回の国際交流委員会企画シンポジウムでは、現在IRSSの編集長を務められているブレント・マクドナルド(Brent McDonald)氏を招聘し、IRSSから窺えるスポーツ社会学をめぐる国際的な研究動向について紹介いただく。その上で、シンポジウムの後半では「ワークショップ」の形態をとり、IRSSをはじめとした国際誌に投稿する上での留意点や、本学会に所属する研究者に期待されていることなどについて、ひろく意見交換する場としたい。

基調講演：ブレント・マクドナルド
(ビクトリア大学(オーストラリア) / Editor-in-chief, IRSS)

コーディネーター・通訳：金子 史弥(立命館大学)
小林 広治(小樽商科大学)

4. 各委員会からのお知らせ

4-1. 編集委員会

ご存知のように、3月の学会総会で今後『スポーツ社会学研究』に掲載された書評とリプライは原則J-STAGEに転載することになりました。さらに、8月末に開催された学会理事会では、過去に掲載された書評とリプライのうち、創文企画に発行を委託した2006年(14巻)以降のものもJ-STAGEに転載することが決まりました。その著者の皆様でJ-STAGEへの転載を望まない方は、2025年3月末を締切として日本スポーツ社会学会事務局へ申し出ただけですでしょうか。期日までに学会事務局へ申告いただいた分については、J-STAGEへの転載を取りやめさせていただきます。

なお、書評とリプライがセットで雑誌に掲載されている場合、書評かリプライのどちらかの著者が転載を拒否された時には両方とも転載されませんので、その点はご了承をお願いします。また、今後本誌に掲載される書評とリプライについても、どちらかの著者から誌

面での掲載に限定して欲しい旨の申し出があった場合は J-STAGE への転載を取りやめることができますので、その点はどうぞご安心ください。

編集委員長 西山哲郎（関西大学）

4-2. 研究委員会

①学会大会における事業については、本会報の下記をご参照下さい。

2. 第34回大会における研究委員会企画

- (1) 研究委員会企画
- (2) 学生企画シンポジウム

②2024年度の研究セミナーについて

以下の要領で研究セミナーを開催いたしました。

日時：2024年12月7日（土）13時00分～15時00分

会場：明治大学和泉キャンパス図書館ホール

（Zoomとのハイブリッド開催）

内容：スポーツと分断：パリ五輪と都市空間における排除

講演者：稲葉奈々子 先生（上智大学）

指定討論者：大沼義彦 会員（日本女子大学）、山口理恵子 会員（城西大学）

司会：竹崎一真 会員（明治大学）

参加者：対面参加者6名、オンライン参加者：20名程度

③その他、下記の事業を実施いたしました。

- ・2024年度第1回学生フォーラム 2024年7月20日（土）
報告者4名、参加者15名程度
- ・2024年度第2回学生フォーラム 2024年11月17日（土）
報告者4名、参加者15名程度

研究委員長 高尾 将幸（東海大学）

4-3. 国際交流委員会

2024年度の国際交流委員会では、まず、韓国スポーツ社会学会との友好覚書に基づく交流事業の一環として、2024年8月23日に韓国のソウル市立大学で行われた日韓学術交流大会（韓国スポーツ社会学会主催）に、演者として水上博司会員（日本大学、本学会理事長）を派遣しました。この学術交流大会には、国際交流委員会委員である申恩真会員（北海学園大学）も通訳として参加されました。また、会長、理事長、事務局と協力しながら、2024年10月19日、20日に台湾の国立台湾体育大学で開催された東アジアスポーツ社会学フォーラムへの、本学会からの会員派遣に向けた準備を進めました（詳細は5. 海外学会参加報告をご覧ください）。

今後の活動についてですが、第 34 回学会大会では、国際交流委員会企画シンポジウムを実施します。今回は、国際スポーツ社会学会（ISSA）の機関誌である *International Review for the Sociology of Sport*（IRSS）の編集長を務められている Brent McDonald 氏（Victoria University, Australia）をお招きして、IRSS における研究動向を紹介いただくとともに、IRSS をはじめとした国際誌への投稿に向けたワークショップを開催する予定です。

さらに、ISSA の次回年次大会が、2025 年 7 月 8 日から 7 月 11 日にかけて韓国のソウル（於ソウル国立大学）で開催される予定です。国際交流委員会としましても、これに関する会員への情報共有を進めるとともに、発表に関する支援を行う予定です。

その他、海外研究者を交えたセミナー等を、随時企画・開催したいと考えております。なお、「海外研究者招聘による企画の協力に関する内規」（2022 年度策定）を昨年度より運用しております。学会員のみなさまにおかれましては、海外研究者を招聘し、シンポジウム・セミナー等を企画される際に、適宜ご活用いただければ幸いです。

国際交流委員長 金子 史弥（立命館大学）

4-4. 電子ジャーナル委員会

J-Stage に掲載する『スポーツ社会学研究』原稿については、過去 1 年間に以下のような変更がありました。

- 書評も公開する（2023 年度総会決定事項）
- 依頼論文（特別寄稿論文、特集論文、及び特集のねらい）公開までの期間を刊行後 1 年から半年に短縮する（2024 年 5 月 23 日開催理事会決定事項）

以上の変更の詳細については会報 83 号をご覧ください。

現在、以下の巻号の各コンテンツが J-Stage に掲載されています。

- 第 31 巻 1 号（2023 年 3 月 30 日発行）の特集論文、原著論文
- 第 31 巻 2 号（2023 年 9 月 30 日発行）の特集論文、原著論文
- 第 32 巻 1 号（2024 年 3 月 31 日発行）の原著論文
- 第 32 巻 2 号（2024 年 9 月 30 日発行）の原著論文

第 32 巻第 1 号特集論文の掲載作業が滞っていますが、今後、書評の掲載と共に掲載作業を進めていきます。

電子ジャーナル委員長 高峰修（明治大学）

4-5. 広報委員会

広報委員会は、公式ホームページによる情報提供と、会報の編集・発行を主な業務としております。会員の皆様には、会員に広く告知してほしい研究セミナーや交流研究会などございましたら、積極的に情報提供いただければ幸いです。jsss.kouhou@gmail.com にて、随時受け付けています。お気軽にお寄せください。

広報委員長 水野英莉（流通科学大学）

4-6. 学生研究奨励賞選考委員会

学生研究奨励賞選考委員会は、学生会員の皆さんの優れた研究を、論文部門と発表部門に分けて表彰します。論文部門については、2024年12月現在、『スポーツ社会学研究』32巻に掲載された学生会員による2論文を対象として審査中です。発表部門については、岡山大学で開催予定の日本スポーツ社会学会第34回大会（2025年3月）での口頭発表が審査対象となります。いずれも、第34回大会のクロージング時に表彰を行う予定です。

ここ数年、学生会員による論文および口頭発表数が非常に多く、選考委員会としては良い意味で悩ましい状態となっております。学生会員の皆さんにおかれましては、この制度をきっかけとして積極的に研究成果を公表していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学生研究奨励賞選考委員長 笹生心太（東京女子体育大学）

4-7. 学会賞選考委員会

本学会では、会員の優れた研究を顕彰かつ奨励することを目的として、2年に一度、学会賞の審査・授与をします。今年度は審査年ですので審査結果は、第34回大会（岡山大学）にて発表をいたします。

なお、次回の学会賞審査年は2026（令和8）年度です。改めてご案内を申し上げますが、以下の期間に発表された研究成果を対象としています。その際には、多くの学会賞候補をご推薦いただきますようお願いを申し上げます。

論文部門 2024年10月1日から2026年9月30日
著書部門 2023年10月1日から2026年9月30日

学会賞選考委員長 水上博司（日本大学）

5. 海外学会参加報告

5-1. 日韓スポーツ社会学者学術交流大会

水上博司（日本大学）

韓国スポーツ社会学会（KSSS）と日本スポーツ社会学会（JSSS）の「日韓スポーツ社会学者学術交流大会（KSSS-JSSS Joint conference 2024）」は、2024年8月23日、ソウル市立大学（University of Seoul : UOS）にて開催されました（参加者53名）。このカンファレンスは、8月21日-8月24日の4日間、鮮文大学校（Sun Moon Univ）を会場に開催されていた韓国体育学会の年次大会（日本体育・スポーツ・健康学会からは日本女子体育大学の深代千之先生がゲストスピーカー）の期間中の1日、各々の研究分野が自由に分野

別の企画をしてもよいというもので、会場も鮮文大から UOS へ変更して企画されたものでした。

JSSS からは私と KSSS 会員でもある北星学園大学の申恩真先生（JSSS 国際交流委員）の 2 名が参加しました。申先生は、KSSS-JSSS Joint には欠かせないたいへん重要な役割を果たしてくださいました。KSSS 国際交流委員会委員長の Yoonso Choi 先生（UOS・Arts and Sports）からの諸連絡では、申先生が橋渡し役になっていただき、私から提出した抄録やパワポの翻訳、当日の KSSS 会長、HeeJin Seo 先生、ISSA board、Sun-Yong Kwon 先生（前 KSSS 会長）、Yoonso Choi 先生を交えた昼食会や発表の通訳も務めていただきました。申先生には、この場を借りまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。また立命館大学の金子史弥先生には、国際交流委員長として KSSS-JSSS Joint に先生のお力添えをいただき心より感謝申し上げます。

カンファレンスのテーマは「日韓スポーツ体制と組織の公共性」です。このテーマは、最初からあったわけではなく、事前に私の方から発表テーマを KSSS に提示し、それに合わせる形で KSSS から 2 名の演者を人選しながら、この全体テーマが決定したということでした。私が発表した「これからの日本のスポーツ組織論-スポーツの公共圏から」では、学校や企業に依存・寄生しながら設立・発展してきた学校運動部や企業実業団といったトップダウン型のスポーツ組織の課題を提示し、これからの日本のスポーツ組織は、自立したスポーツ市民による公共圏（共通善を生み出す社会空間）を、さまざまなスポーツ組織がボトムアップ型で創出していくことの必要性を報告したものでした。私の発表を受けたキム・ソンハ課長（大韓体育会）は、これからのスポーツ組織が果たすべき公共サービスが、アスリートの育成・強化ばかりではなく、広く市民スポーツの参加促進を促す事業が必須であることが報告されました。また若手研究者のガン・テヒ先生（ソウル大学）からは、スポーツの公共圏が、ご自身の博士論文のテーマ「スポーツ政策の公共性の探索-スポーツ政策の利害関係者の認識を中心にして」につながる部分もあり、韓国スポーツ界における公共圏の課題とその必要性を報告していただきました。

ちょうど私の訪韓は、パリ五輪バドミントン女子シングルスで金メダルを獲得した韓国代表のアン・セヨン選手が、「代表に多くの失望をした。（金メダル獲得の）原動力は怒りだ」という言葉で、韓国バドミントン協会を痛烈に批判した発言をめぐって連日メディアが大騒ぎしていたタイミングでした。カンファレンスでも、その話題が大きな注目であったことが想定され、参加者からの質問は、アスリートと組織をめぐる葛藤や対立の構造に集中しました。私からは、日本のアスリートファーストやアスリートセンタードの取り組みを紹介して議論をしましたが、スポーツ組織体制をめぐるトップダウン型のガバナンスは、日韓ともにスポーツ組織体制の重要な研究課題であり、両国の研究者が協力して、この課題に取り組む必要性を感じました。

今回のカンファレンスへの参加を通じて KSSS からは、JSSS との学術交流では、とくに大学院生といった若手研究者同士の交流を深めたいという強い期待が感じられました。来年 7 月には韓国ソウル大学にて国際スポーツ社会学会（ISSA2025）が開催されます。是非とも JSSS から多くの発表エントリーをしていただき、日韓の学術交流が活発化することを願っています。



写真中央ネクタイが筆者、その右が HeeJin Seo 先生、Sun-Yong Kwon 先生

5-2. 東アジアスポーツ社会学フォーラム

大沼 義彦（日本女子大学）

2024年10月19日、20日に国立台湾体育大学にて東アジアスポーツ社会学フォーラム（以下、EASSF 2024 と略）が開催された。本研究フォーラムについては、2024年3月の本学会大会にて台湾スポーツ社会学会会長の Tzu-hsuan Chen 氏より紹介があり、本学会にも国際交流委員会を通じてパネルセッションでのスピーカー等の召請があった。そのため、本学会からも多くの会員が参加した。

EASSF 2024 の特徴は、台湾、韓国、日本のスポーツ社会学会が関与して組織された初の東アジアでの研究大会、という点にある。そのため、三か国のスポーツ社会学会の会長等、学会関係者が一堂に会し、各学会間の交流を深める機会となった。加えて、フォーラムには、元 ISSA 会長の Steve Jackson 氏、現 IRSS 編集委員長の Brent McDonald 氏らもキーノートスピーカとして参加され、ISSA との交流も図ることができた。いずれにせよ、東アジアにおけるスポーツ社会学研究のネットワーク形成や ISSA 関係者との関係を密にすることができたという点で意義深いものであった。

さて、EASSF 2024 では、3つの東アジアスポーツパネルセッション（Sport and Gender Issues in East Asia, The 2024 Paris Olympics and Elite Sports Policy, Postcolonial



挨拶する Tzu-hsuan Chen 氏（高尾会員撮影）

History and Intra-Regional Rivalry of Baseball in East Asia) が設定され、台湾、韓国、日本からのパネリストが登壇し議論を交わした。また、3つのキーノートスピーチがあった。それぞれのテーマは、Surveying the field for the Sociology of Sport in East Asia: Trends, Issues and Possibilities for the future (Brent McDonald 氏)、The Contested Terrain of Sportswashing (Steve Jackson 氏)、CrossFit: The Politics of a Contemporary Fitness Regime (Marcelle Dawson 氏) である。口頭発表も全体で 49 演題、ポスター発表も 10

の報告があった。口頭発表は、台湾 21 演題、日本 14 演題、韓国 9 演題、香港 3 演題、ニュージーランド 1 演題、インド 1 演題であった。ポスター発表は台湾 8 演題、日本 2 演題が報告された。このように、香港、ニュージーランド、インドからも参加があり、各口頭発表会場では熱のこもった議論や意見が交わされた。

今回、筆者は松尾会長の代理ということで、開会と閉会のあいさつを担当した。閉会式では、本学会の松尾会長のビデオメッセージも披露された。主催された台湾スポーツ社会学会の関係者、また韓国スポーツ社会学会関係者、さらに ISSA の関係者とは 2 日間一緒に過ごす中で親交を温めることができた。2025 年 7 月 8 日から 11 日にはソウルで ISSA 2025 が開催される。本フォーラムはそのプレ大会という意味もあったであろうが、それ以上に各学会間、何より参加された会員間の研究関心、成果の共有が図られ、相互の交流と理解が進み、互いに交流の新しい地平を垣間見る、そんな機会となった。

EASSF という今回の貴重な試みを今後どのように引き継いでいくかは課題であるが、EASSF 2024 の実現に文字通り奔走された Tzu-hsuan Chen 氏、並びに台湾スポーツ社会学会の皆様には、この場をお借りして心より感謝を申し上げたい。今後、EASSF 2024 を機に東アジアの研究交流が一気に進む、そうした期待に満ちた大会となった。

なお、各パネルセッションや口頭発表の様子については、以下、参加された会員からの報告の通りである。



挨拶する大沼義彦会員（高峰会員撮影）

【パネル 1】 東アジアにおけるスポーツとジェンダーに関する諸問題 Sport and Gender Issues in East Asia

高峰 修（明治大学）

今回の東アジアスポーツ社会学フォーラムにおいて、私は“Sport and Gender Issues in East Asia”というテーマのパネルディスカッションに登壇する機会を得た。台湾から Dr. Ying Chiang (Chihlee University of Technology)、韓国から Dr. Yoon So Choi (University of Seoul)、日本から高峰がパネリストとして登壇し、座長はニュージーランドの Dr. Marcelle Dawson が務めた。

パネリストの報告内容は各国のスポーツ領域におけるジェンダー研究の現状に焦点を当てたものになったが、パネルディスカッションを終えた感想を端的に表せば、台韓日三カ国におけるスポーツとジェンダーをめぐる問題とその研究成果には多くの共通点があるように感じた。例えば韓国からは、コーチやアスリートとしての女性の参加は、数的には大幅に増加しているものの、給与やボーナスには未だ男女別格差があり、リーダーシップや組織幹部職における女性の比率は依然として低いという報告があった。また台湾では、最近プロ野球におけるチアリーディングについて、または女性アスリートの月経についての研究プロジェクトが行われているそうである。2024 年 6 月には台湾アリーナで台湾、日本、韓国のチアリーディングチームが初めて集結したそうだが、チアリーディングチーム



ジェンダーに関するパネルセッション(金子会員撮影)

象におけるチアリーダーや女性ファンに関するメディア研究があり、いずれも大学院生など比較的若い研究者による意欲的な研究報告であった。今後、こうした個々人の研究においても三カ国間の情報共有が進み、より発展していくことが期待される。

に負けない、三カ国間の共同研究が期待される。

口頭発表に関しては、初日に4セッション19演題、2日目に8セッション30演題の発表が行われ、ジェンダーに関しては2セッション7演題の報告があった。そのうち2演題は東海大学の高尾会員、谷木会員によるゲイの男たちによるバレーボール活動とそのメンタルヘルスについてであった。その他にはスケートボードやサッカーをする女子たちのジェンダーアイデンティティ等について探った質的研究、アジア大会に出場した台湾先住民女性を扱った歴史研究、スポーツ報道・表

【パネル2】

2024 パリオリンピックとエリートスポーツ政策 The 2024 Paris Olympics and Elite Sports Policy

金子 史弥 (立命館大学)

1日目(2024年10月19日土曜日)の最後の時間帯(15時50分から16時50分)に行われたパネル2「2024年パリオリンピックとエリートスポーツ政策(The 2024 Paris Olympics and Elite Sport Policy)」には、日本スポーツ社会学会から金子史弥会員(立命館大学、国際交流委員長)、韓国スポーツ社会学会からは Sun-Yong Kwon 氏(ソウル国立大学)、台湾スポーツ社会学会からは Ren-Shiang Jiang 氏(国立台湾体育運動大学)が登壇した。各演者の発表は、1)パリ2024オリンピックにおける各国の成績や同大会を象徴するアスリートの紹介、2)それぞれの国におけるエリートスポーツ政策の現状および課題、という2つのパートで構成された。特に2点目に関しては、各国におけるエリートスポーツシステムをめぐる課題(競技団体に対する「選択と集中」に基づく助成金の配分のあり方の問題など)や、アスリートの表象やSNS上での誹謗中傷をめぐる問題などが共通して指摘された。発表後のパネルディスカッションでは、「各国のエリートスポーツ政策には共通点が数多くみられるものの、結果としてメダル獲得数で大きな差が生まれているのはなぜか」というフロアから出た質問をもとに議論が展開された。パネル終了後も台湾の学生が演者に質問をしに来るなど、本テーマに関する関心の高さが窺えた。



パネル2にて講演する金子史弥会員(高峰会員撮影)

また、一般研究発表に関しては、1日目の「スポーツとグローバリゼーション(Sport and

Globalization)」のセッションで座長を務めた。このセッションでは、「台湾の大学のサッカー部における外国人留学生の受け入れをめぐる問題」、「台湾の移民コミュニティにおけるアイスホッケークラブの存在意義」、「国際スポーツ機関（IOC、IFなど）における東アジア（台湾、中国、韓国、日本）出身者の地位」、「台湾プロバスケットボールにおける元NBA選手をめぐる表象」、「東京 2020 オリンピック・パラリンピックをめぐる香港のソーシャル・メディアの投稿に関する分析」といったテーマの発表がなされた。大学院生による発表が多かったが、課題の設定や用語の定義、方法などの点でやや粗さはみられたものの、英語力・内容ともに全体的に質の高いものであった。

【パネル 3】 東アジアにおける野球のポストコロニアル史と地域内のライバル関係
Postcolonial History and Intra-Regional Rivalry of Baseball in East Asia

清水 諭（筑波大学）

多くの研究者が集まる国際学会に参加するのは 10 年ぶりだったが、台湾、韓国、オーストラリアなどの旧知の研究者と久しぶりに数日間過ごすことができた。何より台湾、韓国、日本の研究者を中心に集まったフォーラムであったので、これまでのどの国際学会よりも親密な空気が流れ、大学院生をはじめとする若い研究者たちが活発に議論し、楽しんでいた光景が印象に残った。

このフォーラムは、私が大学院生を連れて台湾師範大学と合同シンポジウムを共催した 2023 年 9 月、台湾スポーツ社会学会長の陳子軒（Chen, Tzu-Hsuan）氏（国立台湾スポーツ大学）から構想を聞いたことに端を発したとはいえ、3ヶ国のスポーツ社会学会が協力して開催され、成功裏に終わったのは大きな意味をもつといえる。

フォーラムの最後に位置づけられた本パネルは、Ik, Young Chang（韓国スポーツ大学；オタゴ大学 Steve Jackson 氏のもとで学位取得）、謝仕淵（Yuan, Hsieh Shih）氏（台南市政府文化局）と私がそれぞれ 15 分間の発表をし、議論を行った。

はじめに Ik 氏は日本の植民地における韓国での野球の発展について述べた。そして、1982 年に Korean Baseball Organization (KBO) が設立し、1990 年代に財政危機に陥ったことから改革がなされ、今日に至っていることに言及した。次に、謝氏は「甲子園が東アジアの野球をつくった」とし、「武士道的野球」が台湾でも受容されたことを述べた。おそらく礼儀正しく秩序に則って、精神を強調する野球のことをこのように表現したのであろう。そして、1990 年代以降、日本文化の排除が行われながら、陳水扁大統領による「国球化」（国技化）により台湾ナショナリズムが生起したことを示した。最後に、私は文化の伝播、受容、翻訳、変容、我有化といった理論的基盤を説明したのち、日本における野球が小林一三や正力松太郎によって文化産業として発展してきたことを述べた。そして、第二次世界大戦後のアメリカの大衆文化（「ソフトパワー」）としてディズニーアニメーション、テレビドラマなどと共に野球やプロレスが日本の人々に深く浸



パネル 3 で報告した清水諭会員と Brent McDonald 氏（大沼撮影）

透したことを述べた。その一方、多くのプロ野球選手が台湾や韓国から移動してプレーをしてきた事実があり、また日本で生まれながらも中華民国や韓国籍を変えずに唯一無二の業績を残した選手の存在、さらに在日韓国・朝鮮籍の選手によって日本におけるプロ野球が成立してきたことを示した。

以上、台湾、韓国、日本の野球は、アメリカの影響を受けつつ、日本の植民地下にあったことの影響があり、各国選手の移動に加えて、在日韓国・朝鮮人の選手たちなどによって複雑かつ多様な野球文化圏を構築していることが示された。今後、1990年代以降の3ヶ国における選手移動ほかグローバル化の中での変容プロセスを継続して議論したいと思っている。

【口頭発表】 スポーツとジェンダーに関するセッションから

高尾 将幸（東海大学）

参加した **Sport and Gender I** では、日本からゲイ男性当事者によって組織化されているバレーボールについて、組織構成および当事者が実践に対して抱く意味（高尾会員ほか）、参加者のメンタルヘルス（谷木会員ほか）について報告がなされた。続いて台湾の **Chia-Chen Chou** から、台湾の女性スケートボーダーが、いかに自らの女性ジェンダーとしてのアイデンティティとスケートボーダーとしてのパフォーマンスの間で交渉しているのか、いかにして女性性と男性性を織り交ぜようと様々な戦略を駆使しているのかについて、彼らの経験にフォーカスした報告があった。続く韓国の **Ryu Kyeong Kim** と **Ok Ju Kim** からは、韓国におけるサッカークラブへの女性参加者の、真剣なレジャー経験およびサッカープレーヤーとしてのアイデンティティについて探索的研究の報告がなされた。ここでは、レクリエーションなレジャーから、当事者が徐々に自己充足、アイデンティティの発展、個人的満足感を目的とした真剣なレジャーへと向かっていく様子が質的なアプローチによって示された。

また、**Sport and Gender 2** でも、台湾における原住民女性のスポーツ活動に関する歴史（**Yi-Chun Huang**）、台湾におけるセクシャル化されたチアリーディング（**Chun-wei Tseng, Tzu-hsuan Chen**）、台湾における女性ファン表象（**Chien-Hui Wen** と **Chang-de Liu**）といった女性ジェンダーを対象とした研究が主であり、男性中心的なスポーツに対して、女性の立場から批判的に論じるというスタンスが確認できた。この点は日本における研究状況とも軌を一にしていると感じられた。また、研究手法としては質的アプローチが支配的である点も、日本の状況と近いものがあるように思われた。

報告者がチェアを務めたポスターセッションでは、台湾と日本の若手研究者による発表が多数を占めた。台湾からは、学校や地域におけるスポーツの実態や問題点、さらに上述のセッションにもあった、チアリーディング文化に関する調査の報告等があった。



Sport and Gender I で発表する高尾将幸会員
（本部撮影）

6. 事務局より

6-1. 2024年度理事会議事録（第17回～第24回）

第17回理事会

日 時：2024年5月23日（木）19:00～

開催形式：オンライン開催

議 題：

1. 韓国スポーツ社会学会（8/22-23）への派遣について
2. 東アジア国際スポーツフォーラム（10/19-20）への派遣とテーマについて
3. JSSSのワーキンググループの設置について
4. EBSCOとの契約について
5. 第33回学会大会 会計報告
6. 入退会者について
7. その他

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

入退会者については、退会者9名、除名取り下げ者1名について審議ののち、承認された。

第18回理事会（臨時）

日 時：2024年6月6日（木）～6月12日（水）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 東アジアスポーツ社会学国際フォーラムの派遣者（台湾）について
2. 第17回理事会議事録（案）について
3. 入退会者について

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

入退会者については、新規入会者2名、退会者1名について審議ののち、承認された。

第19回理事会（臨時）

日 時：2024年8月6日（火）～8月9日（金）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 入退会者について

入退会者については、新規入会者3名、退会1名について審議ののち、承認された。

第20回理事会

日 時：2024年8月31日（土）16:00～17:30

開催形式：対面及びオンライン開催

会 場：福岡大学 A 棟 1 階 AB01 教室 4 階

対面参加者（五十音順）：秋吉遼子、大沼義彦、笹生心太、高尾将幸、高峰修、
中澤篤史、西山哲郎、松尾哲矢、水上博司、
村本宗太郎（事務局）

オンライン参加者（五十音順）：岡田千あき、金子史弥、原祐一、水野英莉、溝口紀子、
山口理恵子、杉本厚夫（監事）、前田博子（監事）、
渡正（事務局）

< 報告事項 >

1. 2024 年各委員会の活動進捗状況、活動計画および中間決算報告について（各委員会、事務局）

1-1. 編集委員会【資料 1-1, 1-2】

西山委員長より、4 月から 9 月期間の活動報告がされた。学会誌へは投稿が 3 本、書評 4 本が投稿されていることが報告され、2024 年 10 月から 2025 年 3 月までの活動計画が報告された。

審議事項として、創文企画に刊行を委託するようになった 2006 年（14 巻）以降の書評バックナンバーの電子化の検討状況が報告された。バックナンバー（別紙資料 1-2）において、激しいやりとりとリプライがあった書評 4 編が提示され、掲載に関する対応が審議された。

4 編について電子化して良いこととなったが、23 巻 2 号においてリプライがないのはフェアではないのではないかとする意見が委員会内で示されたことが報告された。

原案としては事前のオプトアウト方式を取ることを視野に提案を行うこととなった。

電子ジャーナル委員会の高峰委員長より、25 巻 2 号、26 巻 1 号の海外文献紹介は掲載しなくても良いとする著者からの連絡があったことが報告された。別の著者による 25 巻 1 号の海外文献紹介については本人の意思を確認して掲載可否を決めることになった。

1-2. 研究委員会【資料 2】

高尾委員長より、4 月から 8 月期間の活動報告がされ、今後の活動計画が報告された。

学生フォーラムに関連する予算について、年内に開催されるセミナーについては 2024 年内予算で、学会大会関連は年明け後の予算で対処することが報告された。

1-3. 国際交流委員会【資料 3】

金子委員長より、4 月から 8 月までの活動報告がされ、9 月から 12 月までの活動計画が報告された。

第 34 回学会大会（於：岡山大学）における国際交流委員会企画シンポジウムの開催予定が報告された。

1-4. 広報委員会

水野委員長より、口頭で活動報告がされた。当初計画から特段の変更はない。

会報 83 号が発行され、84 号が 12 月を目途に発行される予定であることが報告された。

学会の HP メンテナンスは現状ではまだ進んでいないが、今後進めていく予定であることが報告された。

1-5.電子ジャーナル委員会【資料 4】

高峰委員長より、活動報告がされた。

例年と異なる支出として、J-Stage に書評を掲載するに伴い、新たに費用が発生する可能性があることが報告された。

1-6.学生研究奨励賞選考委員会【資料 5】

笹生委員長より、活動報告および活動計画について報告がされた。審議事項はなかった。

1-7.学会賞選考委員会

水上理事長より、活動について口頭で報告がされ、今後、学会員にアナウンスを行い、9月末の締切後から学会賞選考の手続きを進めていく予定であることが報告された。

1-8.事務局

特になし。

2.『スポーツ社会学事典』の刊行について（松尾会長）

松尾会長より、スポーツ社会学事典刊行について、現在校正が進められており、発刊へ向けて進められていることが報告された。

3. 東アジアスポーツ社会学フォーラムの進捗状況について（国際交流委員会）【資料 6】

金子委員長より、進捗状況について報告がされた。

日本スポーツ社会学会からの派遣について、シンポジウムに 3 名、クロージングに 2 名および会長からビデオレターが送られることが報告された。

日本からの一般研究発表の申し込み数（口頭発表 14 演題、ポスター発表 2 演題）が報告された。

4. 第 35 回大会開催校募集について（事務局）【資料 8-1, 8-2】

大沼事務局長より、第 35 回大会開催校募集を行うことが報告された。募集期限が 2024 年 11 月 2 日（土）であることが確認され、応募がなかった場合は各会員に打診することとなった。打診を行う場合は、開催回数が 1 回以下の甲信越地区、北陸地区、四国地区の未開催県、沖縄等が打診案として示された。

5. その他

5-1.補助金の申請状況

高尾委員長、原委員長より、日本スポーツ社会学会第 34 回大会に向けた補助金の申請は行わないことが報告された。

5-2.第 33 回大会、第 34 回大会事務局の引継ぎについて

33 回学会大会事務局から、34 回学会大会事務局間で引継ぎが行われたことが報告された。

5-3.日韓スポーツ社会学会学術交流会について（水上理事長）

水上理事長より、日韓スポーツ社会学会学術交流会に参加した内容について報告がされた。

< 審議事項 >

1. 第34回大会（岡山大学）の開催について（大会開催校）【資料9】

原会員より、第34回学会大会開催準備の状況について報告がされた。

開催期間 2025年3月15日（土）・16日（日）で、スケジュールの関係上、実行委員会企画はランチョンセミナーとして開催することが計画されていることが報告された。

学会大会の銀行口座について、ゆうちょ銀行は法人の開設が複雑になっているため、インターネットバンクを利用することが検討されていることが報告された。

松尾会長より、学会大会の開催校の特色を出してほしいので、ランチョンセミナーは実行委員会企画を進めてはどうか、とする意見が示された。

それ以外の意見は特になく開催進捗について承認された。

2. 2024年各委員会の活動計画および予算案について（各委員会、事務局）

2-1.編集委員会【資料1-1, 1-2】

書評掲載の範囲と予算について補正予算で検討することとなった。

2-2.研究委員会【資料2】

特になし。

2-3.国際交流委員会【資料3】

特になし。

2-4.広報委員会

特になし。

2-5.電子ジャーナル委員会【資料4】

報告事項と同様の内容（例年と異なる支出として、J-Stageに書評を掲載するに伴い、新たに費用が発生する可能性があることが報告された）について、補正予算で対応することとなった。

2-6.学生研究奨励賞選考委員会【資料5】

特になし。

2-7.学会賞選考委員会

特になし。

2-8.事務局

特になし。

3. 予算、中間決算【資料10】

大沼事務局長より、2024年中間決算・2025年予算の概要（案）、補正予算の必要性について説明がされた。

4. 選挙管理委員会の設置について【資料 11】

大沼事務局長より、第 18 期（2025-2026 年度）理事選挙の実施案資料が説明された。

選挙管理委員長、副委員長、開票立会人 2 名の決定について審議された。

水上理事長より、選挙管理委員長として高峰修会員、委員として山口理恵子会員、立会人として笹生心太会員、村本宗太郎会員が推薦された。

特に意見はなく承認された。

5. 若手研究者による海外での学会発表に対する助成制度について（国際交流委員会）【資料 12】

金子委員長より、助成制度について説明がされた。

2025 年 3 月の総会で諮り、ソウルで開催される国際スポーツ社会学会の際には支援制度を実施したいと考えている事が示された。

助成制度の方向性として、対象年齢・対象学会・金額・審査基準等が提案された。

水上理事長より、予備費がなくなった場合、助成制度はなくなるのか、質問がされた。

高尾委員長より、費目の部分で予備費ではなく、研究委員会予算に充てることで分かりやすい予算建てになるのではないかとする意見が示された。

松尾会長より、対象年齢が広いのではないかとする意見、対象学会に関して予算をどの程度予定するかは厳密に決めることが求められるとする意見が示され、審査基準をどのようにするか、とする質問がされた。

金子委員長より、質問に対する回答がされた。

助成制度については、引き続き検討することとなった。

6. 国際化 WG 中間報告について

水上 WG 座長より、①ホームページの新規製作、②非会員（国内外）の発表資格条件の緩和について、③MOU による発表資格の付与について、④東アジアスポーツ社会学フォーラム（仮称）の創設構想、の答申案が説明された。

9 月 15 日を目途に意見があれば水上 WG 座長へ連絡することとなった。9 月末に最終案を確定することで今後進めていく。

④東アジアスポーツ社会学フォーラム（仮称）の創設構想については韓国スポーツ社会学会の先生方も前向きな反応であった。

金子委員長より、10 月の台湾でのフォーラムの際に、提案できる段階を目指すのか、アイデアレベルとして提示するのか意見が募られた。

会長への答申は 11 月を予定することとなった。

松尾会長より、会費部分について事前検討が必要になること、国内の調整後に提示していくことが良いのではないかとする意見が示された。

7. 入・退会者について（事務局）

大沼事務局長より、これまでの入退会者については審議されており、新たな審議は現状ではないことが報告された。

8. その他

審議事項は特になし。

閉会にあたり、監事より今後の学会運営に関する意見が提示された。

前田監事より、国際化は慎重に、しかし確実に進めていくことが望ましいのではないかと、

とする意見が述べられた。

杉本監事より、オンライン会議システム（zoom）を学会として契約してはどうか、国際化原資のためには事業のスクラップアンドビルドをしてはどうか、パートナーシップとして企業より寄付を募ることを検討してはどうか、とする意見が述べられた。

以上

第 21 回理事会（臨時）

日 時：2024 年 10 月 2 日（水）～10 月 8 日（火）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 入退会者について

入退会者については、新規入会者 3 名、退会者 1 名について審議ののち、承認された。

第 22 回理事会（臨時）

日 時：2024 年 10 月 14 日（月）～10 月 20 日（日）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 学会賞選考委員案について

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

第 23 回理事会（臨時）

日 時：2024 年 11 月 16 日（土）～11 月 20 日（水）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 入退会者について

入退会者については、新規入会者 1 名、退会者 2 名について審議ののち、承認された。

第 24 回理事会（臨時）

日 時：2024 年 12 月 3 日（火）～12 月 9 日（月）

開催形式：メール稟議

議 題：

1. 台湾・韓国のスポーツ社会学会の会長を招聘する件について

第 34 回日本スポーツ社会学会（2025 年 3 月：岡山大学）へ台湾・韓国の会長 2 名を招聘することについて審議ののち、承認された。

以上

6-2. 事務局からのお知らせ

日本スポーツ社会学会第18期（2025-26年度）理事選挙の実施について （正会員・顧問）

2025年1月21日（火）12:00～2月7日（金）17:00まで、電子システムを用いた第18期理事選挙を実施いたします。役員選出細則第5条により、選挙管理委員会（選挙管理委員長：高峰修理事）が定めた期日（2024年12月31日）までにすべての年度会費（2024年度まで）を納入した正会員が選挙権ならびに被選挙権を有します（顧問は選挙権のみを有します）。ただし、この期日までに退会の意思表示をされた正会員においては、選挙権、ならびに被選挙権を有しません。

つきましては、ご自身の会費納入状況について、今一度ご確認くださいませようお願い申し上げます。ご不明な場合は事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

選挙人、被選挙人名簿は、メーリングリスト及び学会ホームページで2025年1月10日（金）に告知し、1月19日（日）17:00まで確認・確定作業を行います。詳しくは2024年11月20日にメールで配信した「第18期（2025-2026年度）理事選挙について」の添付ファイル「2025-26選挙通知11月」をご覧ください。

以上、よろしくようお願い申し上げます。

事務局長 大沼 義彦（日本女子大学）
事務局次長 渡 正（順天堂大学）

7. 編集後記

本号では、岡山大学を開催校として2025年3月に開催される日本スポーツ社会学会第34回大会に関する情報を掲載いたしました。今大会も実行委員会はじめ担当委員会が工夫を凝らした企画を準備し、みなさまのご参加をお待ちしております。奮ってご参加のほどお願い申し上げます。

本号の会報をもちまして、2023年度および2024年度からなる今期の広報委員会は任期満了し、次期広報委員会へと引き継いでまいります。第81号から84号までのあいだ、執筆にご協力いただきました会員の皆様に深く御礼申し上げます。

広報委員会 水野英莉